

# 昼食時の学生食堂における座る位置の 近接学的考察

竹田憲人† 塩谷勇†

† 法政大学理工学部

## 1.はじめに

学生食堂は、多くの人を利用する公共の場である。法政大学の小金井キャンパスの学生食堂の1つであるスエヒロ食堂の昼食時において、グループのサイズとグループ間の距離から人間の位置関係に関する特性を見出し考察する。

## 2.方法

まず11月22日から12月22日まで(データは毎日あるわけではなく、事情により取れなかった日もある)、19回のスエヒロ食堂の座席のデータをとり、座席の利用率を出す。次に各グループの大きさとそのグループ間の距離の空き方を調べる。

## 3.結果

まず座席の利用率を出す。スエヒロ食堂の席の数は224席であり、細かい振り分けは、1人席が24個、4人机が2個、6人机が12個、10人机が1個、14人机が1個、16人机が6個である。全19回のデータの座席の利用率の平均は、約61%であった。次に10人以上座れる机の全座席数は、120席で、そこだけの利用率の平均は、約61%であった。それ以外の104席の利用率の平均は、61%であった。

次に各グループの大きさとそのグループ間同士の距離の空き方についてである。今回は一つの机でのグループ間の距離について調べるので、1人席、4人机、6人机は、グループが2つ以上座ることは困難なため10人以上座れ

る机を対象として調べる。今回は一番数の多かった3人のグループとその他の人数のグループ間での距離をまとめました。次の図1です。

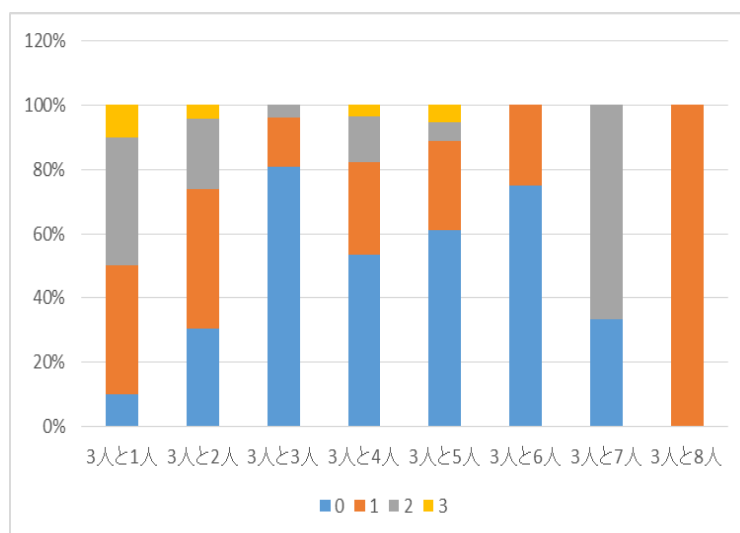


図1 3人グループと他のグループ間の距離の関係

グループ間の距離の測り方は、二人が向かい合って座れる二人席をスペース1としました。上の図では、青い部分がスペースなし、橙がスペース1のようになっています。それぞれの割合で表示させています。この図をみると、3人グループと3人から6人グループ間の距離は、スペースなしが1番多く、1人と2人グループの時は、スペース1が多いことが分かる。